

## コデアルテコを応援しています

小谷操二

キチェ県北部にイシルと呼ばれる地方がある。内戦時代弾圧の最も激しかった地方の一つだ。そのイシル地方の中心的な町の一つであるサン・ファン・コツアルの市場の裏に小さな3階建ての建物があり、「特産織物」と書かれた小さな木の看板がかかっている。その2階が、30人余りのメンバーを抱える民芸織物製品の製造販売グループ「コデアルテコ」（注1）の事務所兼販売所である。「コデアルテコ」は内戦で夫や子供を奪われ生活に困窮した女性たちが、自分たちが持つ織物技術を利用して何とか生活の改善を図ろうと結成したグループだ。

タタミ8畳ほどの広さの部屋には、事務用の机が一つと作業用ミシンが一つ。壁の2面を使って棚が備え付けられ無造作に製品がいくつかおかれているが、なんとも殺風景である。棚にはうっすらと白い埃が見える。製品は、この地方の伝統的なデザインである鳥や人、トウモロコシ畑や動物模様などをあしらった色鮮やかな織物をランチョンマットやショールや小物入れなどに加工したもので、僕にはなかなか魅力的に見えるものが多いのだが、あまり売れる様子はない。

ある日、どやどやと4~5人のアメリカ人グループが入ってきた。狭い部屋を見回し、あれこれの値段を聞いている。そして、「ちょっとここは高いなー、チチ（注2）の市で買えばもっと安いよ」などと話しあっている。「それはちょっと違うんじゃない。だいたいチチではこの地方の製品は売ってないよ。それに製品の質も見極めないで値段だけ比較してどうなる？これだけのものを織るのにどれだけの手間がかかったか考えたことがあるのか」と思ったが思いは心の中だけに留めた。結局彼らは何も買わずに出て行った。コデアルテコの支配人とでもいうべき、唯一の男性であるペドロが、「しかたないなー」という顔つきで残念そうに彼らを見送った。

ペドロの話によれば、2006年にこの店を訪れた観光客は75名で、そのうち日本円にして7500円以上の買い物をした人は15名だそうである。もし、来た人全員が1万円の買い物をしたとしても年間で75万円にしかならないのにこの数字では何とも心もとない。製品の売り上げが収入のすべてという人がほとんどなのに。もちろん売り場はここだけではなく、首都のグアテマラシティや世界遺産都市のアンティグアなどの店にもいくらか置かしてもらっているし、大きな催し物があればどこにでも出かけて売っているらしいが、それにしても大した額にはならない。しかも、その売上金を全部分配できるわけでもない。材料費もかかるし事務所の家賃もいる。光熱費もかかる。それにグループとしての新たな活動費用もいくらかは蓄えておかねばならない。

最近では心配事がまた一つ増えた。コツアルの治安の悪化である。コツアルは怖いという話が広まっている。イシルの入り口であるこの地方最大の町ネバッホまでは結構観光客も来るのだが、そこからコツアルへ回る客が途絶えてしまった。僕自身コツアルの街を歩い

グアテマラへようこそ

ていて怖いと感じたことはないが、それでも雰囲気は悪化する。結婚したばかりのペドロの妹の夫が最近、チンピラ同士のいざこざに巻き込まれて銃で撃たれ意識不明のまま病院にいる。それに、今年8月僕が帰国する直前にコデアルテコの事務所にも泥棒が入り、置いてあった製品をごっそり盗まれてしまった。将来はイシル地域の伝統織物を集めた博物館を建てたいという夢もあり、メンバーが少しずつ集めていた伝統織物も盗まれた。皆の表情は暗い。以前には考えられなかったことだという。

でも、暗い話ばかりではない。今年の7月の末に、土地を借り皆で朝から晩まで開墾して耕して、1500平方メートルほどの面積にフリーホーレスの種を植え付けた。収穫したらメンバーの中の特に貧しい人たちに分配するのだという。準備費はこつこつためていたみんなの共同備蓄金だ。ちょうど種まきの最終日に僕も様子を見に行った。皆疲れていたが、疲れの中に満足感がみなぎっていた。

こうして、織物以外にも活動の輪が少しずつ広がりつつある。今はそろそろ収穫の時期だ。出来栄はどうかだろう。皆の顔が喜びではじけただろうか。

55歳で仕事をやめて中米に出かけたのは5年前だ。目的地はコスタリカだった。肝心のコスタリカはどうも好きになれなくて、途中スペイン語を学ぶために立ち寄ったグアテマラにはまってしまった。

そして、コデアルテコと出会ってぼちぼち3年になる。僕がしていることは、メンバーたちの家を訪れ仕事の様子や家の様子を見せてもらい、話を聞き(と言っても僕のスペイン語能力であまり理解できなし、そのスペインも話せない人たちが多いのだが)、たいがいはお茶か食べ物をごちそうになって帰ってくることに、いくらかの製品を注文して買うことだけ。イシルの人たちは、どちらかというと言えども皆控えめで、身振り手振りを交え表情豊かに意を相手に伝えるという人たちではないが、あまり変えない表情の中にその優しさは十分すぎるほど伝わってくる。その優しさにはほだされて、次の訪問はいつにしようかと僕の心は落ち着かない。

注1 文中の「コデアルテコ(codearteco)」という名称は、Comite Desarrollo Artesanal Cotzalenze の頭文字をとったものです。この名称はコツアルでは本年変更され、現在は使われておりませんが、私は会了承を得て日本ではそのまま使用しております。

注2 チチとは毎週木曜と日曜に開かれる市で有名な町の名で、正式にはチチカステナンゴです。

このグループやコツアルに興味のある方は、スペイン語ですが、グループのホームページをご覧ください。[www.tejidoscotzal.org/index.html](http://www.tejidoscotzal.org/index.html)

また、コデアルテコ製品に興味のある方は [kotanis@m8.dion.ne.jp](mailto:kotanis@m8.dion.ne.jp) にご連絡ください。製品の写真は上記ホームページにあります。

グアテマラへようこそ